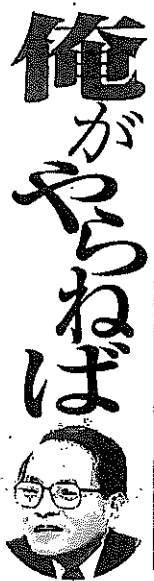


永田町新潮流 平沢勝栄



昨年夏の東京都知事選で、自民党の推した候補は小池百合子氏に惨敗した。その1年後に行われた7月2日の都議選でも自民党は、小池氏率いる地域政党「都民ファーストの会」に大敗北を喫している。

「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」という。2回続けて自民党は小池氏に完敗した。その敗因は何か。

都知事選の敗北について、自民党東京都連では必ずしも十分な反省や総括、そして、それらに基づく改革を行わなかった。これが最大の敗因でないか。さらには「加計学園」問題などの疑惑が連日、マスコミをにぎわした。これも追い打ちをかけた。

かつては週刊誌の報道をそのまま新聞やテレビが取り上げることがはまれだったが、今は違つ。その結果、都議選で自民党は特にテレビ報道により著しい打撃を受けている。そうした中で近く自民党都連会長の選挙が行われる。

新会長は都連立て直しの重



都連の再生・新生には、敗因の「総括」が不可欠だ

とここで先日、国会で閉会中審査が開かれ、「加計学園」問題などで質疑が行われ

責を担わなければならない。それだけに選挙は従来以上の透明性を持って行われるべきだろう。「二度あることは三度ある」と言われる。もし選挙過程などに問題があれば、次の解散総選挙において東京自民党は壊滅的打撃を受けるだろう。

た。安倍晋三首相は極めて謙虚、丁寧、そして低姿勢に答弁していた。この姿勢をぜひ、今後も続けてもらいたいと思う。この問題では「総理の友人に特別な便宜が図られたのではないか」という疑惑があった。しかし、質疑は水掛け論

新都連会長は東京自民党の生死を左右

に終始し、疑惑も完全に晴れたとは言えない。この問題は捜査当局が出る問題では全くないので、新しい事実が出ない限り、そろそろ打ち切りにすることを考えてはどうか。日本の政権は「猫の目」のように変わることで知られる。そうした中で安倍政権は、最近ではまれにみる長期政権となった。政権の安定は間違いない。日本の国益に大きなプラスとなっている。1内閣は1仕事といわれる中で、安倍政権は既に5仕事も6仕事も行っている。しかし、まだ経済再生や憲法改正、更には北朝鮮問題などが待ち受けている。これらに取り組むには、内閣支持率の回復が必要不可欠だ。そのためにも安倍首相には自信と誇りを持ちながら、しかし、今後もおおごることなく、謙虚に取り組んでもらいたいと願っている。

(自民党広報本部長)